

主な内容

特集 1~3
「カーボンニュートラル」を考える

トピックス 4
●弾道ミサイル発射のメッセージが流れた場合の行動について
●北九州市長選挙は2月5日(日)です
●市制60周年のキャッチフレーズが決定 など

まちがいセブン 5
情報ステーション 6~11
*最終ページは人口データと若松区の情報

特集 ロバート馬場さん×北九州市

「カーボンニュートラル」を考える

僕は、大好きな料理を通じて食品ロスの問題を考えるようになりました。ごみを処理するときに出る二酸化炭素の量を減らすため、余った食材の保存方法を工夫したり、ネギの根っこをプランターに植えて再利用したり、自分でできることを始めています。

北九州市特命(観光)大使
タレント 馬場裕之さん
門司区出身。お笑いトリオ・ロバートのメンバー。料理本を出版するなど料理好きでも知られ、消費庁の食品ロス削減推進アンバサダーも務める。

●響灘ホップの会、若松中央小学校4年生の皆さん ※撮影時だけマスクを外しています

若松産ホップを利用した「響灘ホップの会」の取り組み

ビールの原料となるホップを、太陽の光をさえぎって室温の上昇を抑える「グリーンカーテン」にしようとしたホップの栽培。今では、幼稚園や小学校、大学、市民センターなど多くの市民が参加し、地元農家や醸造所も巻き込んだ環境保全活動に発展しています。

若松産ホップの製品 ▶

▲ホップを育てる小学生

特集は2・3ページに続きます

フリートーク ロバート馬場さん ×若松中央小学校の子どもたち

「ホップを育てたことで、地球温暖化について初めて考えました」「日ごろから環境を大切にしている行動を心がけるようになりました」そんな子どもたちの声に、「素晴らしい!」と馬場さんはとても感心した様子。「小学生のうちに、環境について考えることはすごく良いと思います」と、終始笑顔で話されていました。

市長からのメッセージ

新年おめでとうございます。

本市は2050年までに二酸化炭素などの「温室効果ガス」の実質排出量をゼロにする「カーボンニュートラル」を目指すことを宣言しています。

ものづくりのまちである本市にとって、この宣言は高い目標ではありますが、それでも近年、国内外で起きているさまざまな異常気象など地球温暖化による課題を解決するため、産業の発展と同時に温室効果ガスを削減する「グリーン成長」を進める必要があります。

そのためには、皆さん一人一人の協力も必要です。温室効果ガスを発生させないために、ごみの削減やリサイクル(資源化)・リユース(再利用)など一人一人ができることを始めましょう。

北九州市長 北橋健治